

## ● 景観形成の目標像

史跡や周辺自然環境に配慮した親水性のある築堤・護岸整備

### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

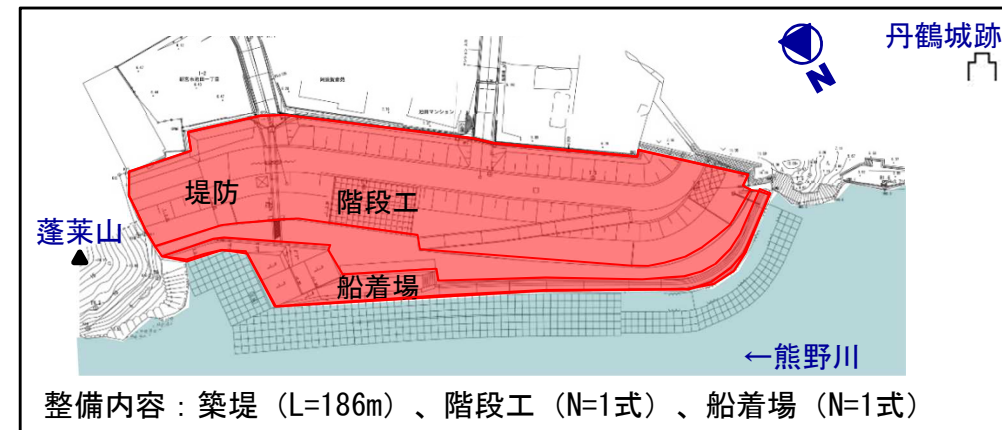
・ 堤防法線については、上下流にある丹鶴城跡、蓬萊山の岩突出部へのすりつけを考慮して、弓なりの自然な線形とする。蓬萊山の山裾への堤防のすりつけにおいては、蓬萊山の熊野川への突出景観を極力保全するように堤防形状を検討する。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

・ 護岸については、城跡の石垣と調和のとれた構造とする。  
・ アプローチのための階段工と船着場の再整備を行う。

### ③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

擬石コンクリートブロックの活用。



## (事業後)

## (事業前)





●景観形成の目標像

円山川の雄大な眺望を可能な限り保全した周辺景観に馴染む水辺空間

①施設や空間の規模・計上・配置等の設定の考え方

・既設構造物に近い構造とすることで堤防の連続性を確保し、景観への影響の小さい構造・工法を採用する。

②細部設計、材料等の選定の考え方

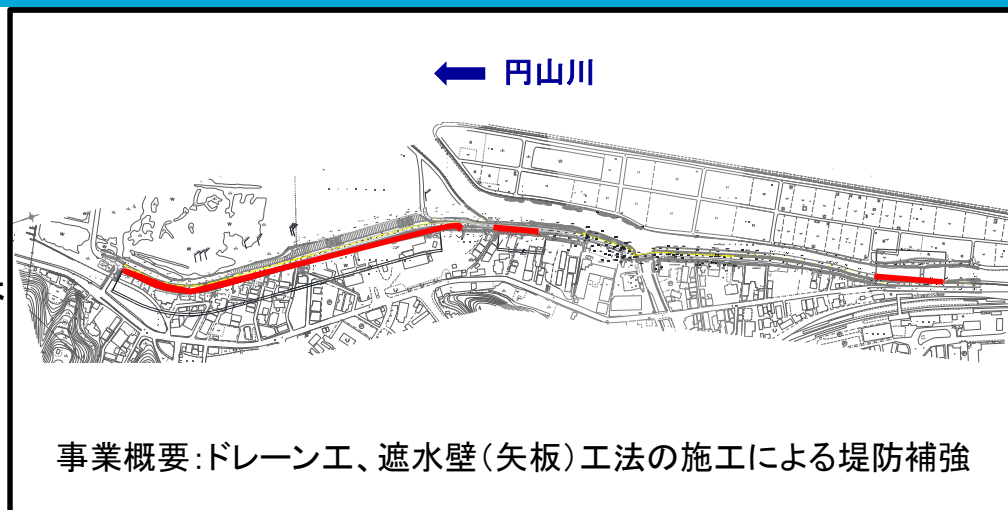
・川裏への対策が必要な下流区間については、既設の構造(ブロック張り擁壁)に近いブロック積み擁壁を採用し、景観の統一性を図る。

・川表への対策が必要な上流区間については、コンクリート床板の天端の高さを周辺の既設構造物と同程度の高さに設定し、景観上の違和感を軽減させる。

③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

・盛土については可能な限り流用土を用いて施工することで、コストの縮減を図る。

(事業前)





●景観形成の目標像

山間部の自然河川及び自然景観を壊さない空間

- ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方  
捨石、植生等を施し周囲の自然景観と調和させる。
- ②細部設計、材料等の選定の考え方

・樋門上屋

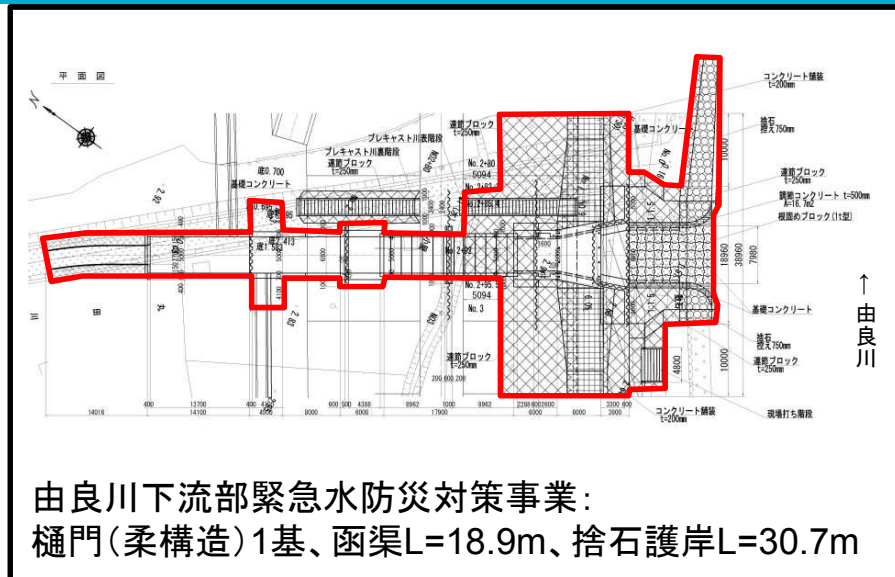
周辺環境になじみ、違和感を与えない構造形式・外観に配慮し、デザインの自由度が高く、ラックカバーの突出が抑えられる「鉄骨ラーメン構造」、一般住宅で多く見られ親近感を感じる屋根形状の外観である「切妻屋根タイプ」によって、親しみが感じられ周辺環境にもなじみ調和のとれた樋門上屋を採用。

・樋門堤体部

護岸形式は、捨石、植生等を採用し、周囲の自然景観と調和を図る。

- ③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

樋門堤体部盛土に発生土及び流用土を利用することによりコスト縮減を図り、土砂流出防止に植生をおこない景観に配慮する。



由良川下流部緊急水防災対策事業：  
樋門(柔構造)1基、函渠L=18.9m、捨石護岸L=30.7m



①,③捨石、植生の状況



(事業前)



(事業後)



②切妻屋根タイプの上屋を採用

●景観形成の目標像

水と緑が織りなす田園風景と駅周辺市街地が融合した快適な空間

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

構造物による圧迫感を可能な限り抑えるため、スレンダーな橋梁形式等を採用し広がりのある空間を創出する。また、法面部を植生することで緑豊かな景観を構成する。

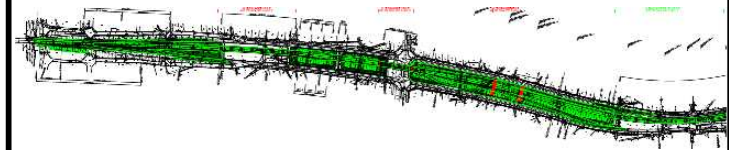
②細部設計、材料等の選定の考え方

コンクリート等の人工素材の露出を少なくし、緑豊かな田園風景に対して繋がりをを持たせる。また、擁壁等は壁面材を自然石仕上げとし周辺との調和に努める。

③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

除草等に要する維持管理費縮減を目的とした、防草対策(石張)及び道路管理上影響の少ない箇所への植生を検討する。

事業箇所(平面図)



青柳北交差点改良事業:青柳北交差点立体化による事故対策

①



②



③



(事業後)

(事業前)





● 景観形成の目標像

生活環境との協調・融合、自然環境との共存・共生、歴史風土の保全継承。

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

- ・高架橋区間において、桁や橋脚には、丸みを付けた圧迫感の少ない柔らかなデザインの採用。 I
- ・鋼橋をCO橋の色調に合わせ一体感を形成。 II
- ・トンネル坑口では、構造物のボリュームを押さえ自然風景に対する影響を小さくする。 III

② 細部設計、材料等の選定の考え方

- ・小泉川沿い区間において、水辺の美しさを表現できる親水空間や、まちの緑からやまの緑をつなぐ回廊空間を創出。 IV

③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

- ・残土処分を可能な限り流用し、事業実施期間の周辺宅地への環境・景観へ配慮。 V



(事業前)



(事業後)



①. I



①. II



①. III



②. IV



③. V



## ● 景観形成の目標像

一般国道43号の出屋敷交差点に架かる出屋敷歩道橋に、エレベータを南北各2箇所にて設けるとともに、スロープ・階段の架け替え、歩道橋のバリアフリー化を行うものである。

## ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

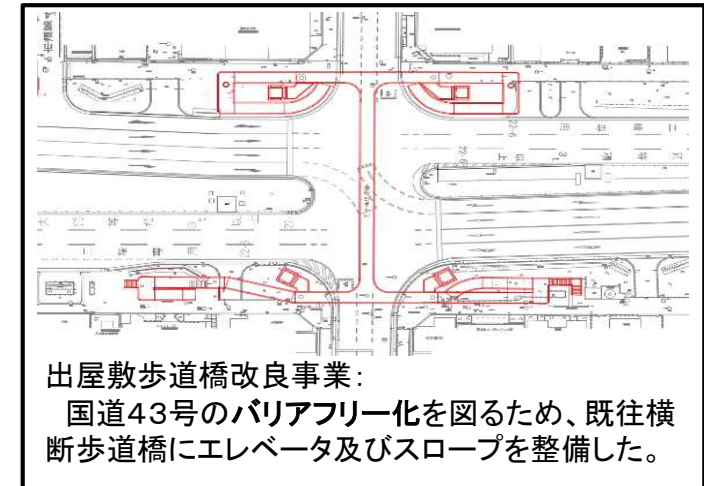
エレベータ等について、周辺建築物(横断歩道橋・阪神高速高架橋)と調和が取れた色彩を採用した。

## ② 細部設計、材料等の選定の考え方

## ③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

(事業前)

(事業後)



横断歩道橋スロープの色彩は既設横断歩道橋と整合を図りベージュ、エレベータ棟の色彩は近接する高架橋橋桁と整合を図りグレーで整備



歩道橋本体に設置されている防音パネルは近接する高架橋橋桁と整合を図りグレーで整備